

山口 二郎 法政大学法学部教授

参議院選挙の意義

7月21日に行われた参議院選挙については、盛り上がりや欠いたという批評がもっぱらであった。しかし、その結果からは、これからの日本政治を考える際に重要な課題が見えてくる。

第1は、投票率が24年ぶりに50%を切ったことである。第2次安倍政権の発足以来、国政選挙の投票率は50%台前半で推移してきた。投票率が低いことが、自民党、公明党の勝利の大きな原因であった。今回の選挙でも投票率を低く押しとどめたことは、与党の成功であった。棄権とは、多数派への白紙委任を意味するのであり、半数以上の有権者が棄権することは国民の多数派が現状を積極的に変えようとは思っていないことを意味する。国民の間に広がる政治への諦めを打開することは、日本政治を変えるための最大の課題である。

第2は、自民党が単独過半数を割り、与党に維新を加えた改憲勢力が3分の2を割ったことである。与党全体では過半数を維持しているが、自民党にとっては政権運営の困難は増す。また、改憲勢力が3分の2を割ったことは、今後の安倍政権に大きな影響を与える。国民民主党などから改憲に積極的な議員を引き抜くという手段も取れないことはないだろう。そうなると、立憲民主党や無所属を巻き込んだ超党派的な合意を作ることは不可能になり、憲法改正が力づくの対決になる。そのような危険を冒してまで安倍政権が憲法改正に突進するのかが問われることとなる。

改憲勢力3分の2割れは、野党協力によって10の1

やまぐち じろう

北海道大学大学院法学研究科教授などを
経て、2014年より現職。専門は、行政学、
現代政治。

著書に『政権交代とは何だったのか(岩
波新書)、『いまを生きるための政治学
(岩波現代全書)、『徹底討論 日本の政
治を変える これまでとこれから』(岩
波現代全書)など。

2019参院選選挙結果 (出典:NHK開票速報)

党派	自民	公明	立憲	国民	共産	維新	社民	れ新	安死	N国	オリ	幸福	労働	諸派	無
今回	57	14	17	6	7	10	1	2	0	1	0	0	0	0	9
選挙区	38	7	9	3	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	9
比例代表	19	7	8	3	4	5	1	2	0	1	0	0	0	—	—

